目次

広報みしま
10月1日号

2 特集 未来の自分のために
10 健幸（けんこう）運動教室 / ヘルスアップ集中講座
11 ほけんカレンダー
12 健康づくり / 消防ポンプ操法訓練の秋季大会
13 スポーツ / 富士山南東消防本部からのお知らせ
14 くらしの情報
17 防犯一口メモ
18 みんなの伝言板
19 情報ワイド版
20 女性まちづくり講座成果発表会 / 第2回地域コミュニティ連絡会開催 / 箱根山組合職員募集
21 図書館 / 文化のひろば / 富士・沼津・三島3市博物館共同企画展
22 生涯学習
24 児童センターイベント情報 / ファミリー・サポート・センターまかせて会員募集 / 里親月間
25 子育て支援フェア
26 レッツ花咲か市民
27 三島みどりまつり / コンテナガーデン講習会
28 フォトマイタウン
30 連載3 水道の将来を考える
31 歴史の小箱 / ふるさと探訪
32 三島スカイウォーク / ぼくのおばあちゃん

今回の表紙

9月14日㈬に老人福祉センターで行われた敬老大会（錦田地区）の様子です。

すてきな笑顔が、元気の秘訣！？健やかで幸せに過ごしていきたいですね。

未来の自分のために
―分岐点―

地方都市に住む私たちにとって、自動車は生命線です。市の人口111,601人に対し、車両保有台数は64,473台という数字からも、車の必要性が分かります。

そんな自動車を、運転できなくなる日が来るかもしれません。今、何不自由なく運転していても、年を重ね、運動能力・判断能力の低下などから運転に危険を感じ、免許を返納する選択に迫られる人もいます。現在、元気な皆さん、これから年を重ねた10年後の移動手段について考えたことがありますか。

【人口・車両保有台数】

項目	計
三島市人口	111,601人
高齢者数	29,903人
世帯数	48,180世帯
乗用車	39,514台
軽自動車	24,959台

▲平成27年三島警察署交通事故統計より（平成27年12月31日現在）

いつまで自信をもって安全運転ができるでしょうか。

自動車のない生活を考えたことはありますか。

一斉にすすむ高齢化

昭和40年代から、次々と造成された市内の新興住宅地。郊外で、一斉に都市基盤や住宅整備がされ、多くの若年夫婦・子育て世帯が入居しました。

現在では、年を重ねた居住者の高齢化や子ども世代の独立などによる地域の人口減少が大きな課題となっています。

地区	完成年	高齢化率
富士ビレッジ	昭和43年	33.2%
光ケ丘（1～3丁目、（光ケ丘））	昭和47年	43%
芙蓉台（1～3丁目）	昭和49年	43%

▲平成28年8月31日現在

車を手放す選択をしたときに、直面する問題は、日常生活に必要な移動の代替手段です。

市内に住む多くの人にとって、日々の生活を徒歩や自転車のみで過ごすことは困難です。しかしながら、移動手段がないからといって、自宅に引きこもりがちになると、不便なだけでなくそれが心身へ影響を及ぼします。自分の好きなときに出かけて、好きな場所に移動し、外の世界とつながることは、充実した社会生活を営むうえで、必要不可欠です。元気で過ごしている今から、将来の自分のことを考えてみましょう。

車を運転することに、不安な点がないか、改善点がないか見つめ直すことは、将来を考える第一歩です。それは、高齢者に限らず、すべての自動車運転手が考えるべきことです。

問合せ　地域安全課（☎983－2701）

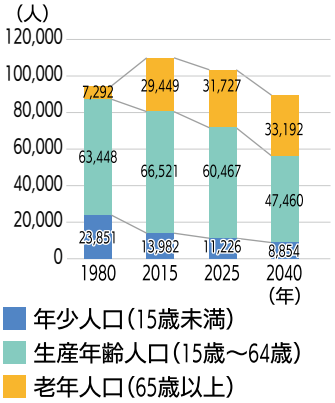
今回の特集では、車の運転を見直すきっかけとして、高齢運転者による事故の現状、そして代替手段となるバスの現状について紹介します。

生活に欠かせない自動車
自由に移動できる“便利な足”。
時として、凶器に変わる

―自分と向き合う―
勇気ある選択を

高齢運転者の特徴

- 長年の無事故経験による、警戒心の薄れ
- 安全確認から、行動開始までの時間差が大きい
- 視野が狭い　など



【三島市の人口年齢構成予想】
出典：国立社会保障・人口問題研究所

高齢運転者の事故増加

超高齢社会の進行に伴い、高齢運転者による事故が増加し、社会問題となっています。

市内の免許保有者人口 75,216 人の内、16,708 人が 65 歳以上の高齢者であり、全体の 2 割以上を占めています。

また、昨年発生した三島警察署管内の交通事故 964 件のうち、206 件が高齢運転者によるものでした。高齢運転者の事故件数は平成 23 年の 183 件から 1 割以上増えています。75 歳以上の後期高齢者が増える 10 年後は、さらなる事故増加が予想されます。

【高齢運転者事故の５年間の推移】

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
183 件	211 件	221 件	183 件	206 件

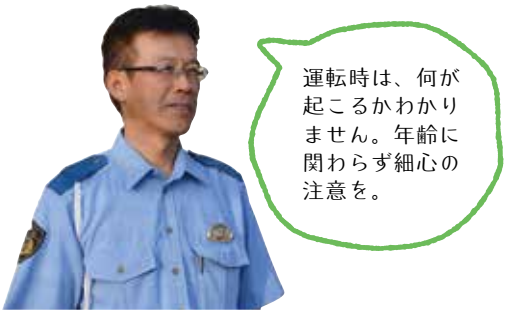
免許からの卒業、阻む壁

三島警察署管内では、高齢者宅を訪問し、免許返納制度の紹介をしていますが、スムーズに話が進むことは、少ないとのことです。

「これまでどおりの生活ができなくなる」という不安が免許返納を躊躇（ちゅうちょ）させる原因の 1 つです。特に、郊外に住む人にとって、車は日常生活には必要不可欠です。

しかし、自分の身を守り、人を傷つけないため、運転をやめることも視野に入れ、ライフスタイルを見つめ直してみましょう。

interview 警察の声



小野田　善之係長（三島警察署交通課）

高齢運転者の中には、夜間は運転しないなど、自分なりに気を付けている人もいますが、高齢運転者の増加によって被害者も加害者も高齢者という事故が多くなることが予想されます。

事故を繰りかえすことで家族が心配になって、相談に来ることがあります。反射神経の衰えや距離感がつかめなくなるなど自覚症状があっても免許返納の決断ができないという人もおりました。免許返納後のケアや不安を取り除くことが必要だと思います。

70 歳以上の高齢者が、免許（有効期限内）返納をすると助成券がもらえるという制度を、より多くの人に知ってもらいたいですね。

返納後も変わらない生活を

自家用車の代替手段として、期待されるバス。現在、市内では、各地域の人が利用できるように路線が張り巡らされ、多くの人の生活の足となっています。しかし、10年後、いざ自動車の運転をやめた高齢者がバスに乗りたいと思ったとき、今のバス網が維持されているとは限りません。

全国各地で消える路線バス

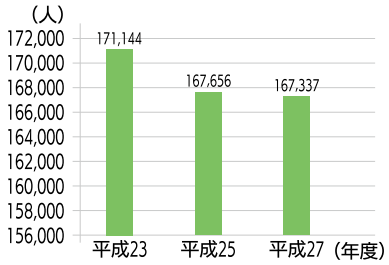
自家用車が広く普及した現在、バスの利用頻度が減り、利用者数も減少しています。バス離れが進むことで、事業者の収益が悪化し、本数が減る。すると利便性が落ち、さらにバス離れが進む。この悪循環から、路線バスが撤退してしまう事例も数多く見受けられます。

三島のバスの現状

市内ではバス事業者が、多くの路線バスを運行しています。採算性の悪化による路線バスの撤退は、「車に乗れない」「車を持てない」交通弱者の生活の足がなくなることにつながります。

市では、路線バス撤退地域などに、コミュニティバスを走らせていますが、徐々に利用者数が減少することで、今後の路線維持が心配されます。

【市内コミュニティバスの利用者推移】



バス事業者の取り組み バスの乗り方教室

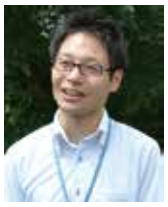
市内の高齢者、小学生を対象に講座を行っています。

長年、自家用車を運転してきた高齢者から、実はバスの乗り方がよくわからないという話をお聞きします。今さら人に聞くのも恥ずかしいという気持ちもあるようです。

また、自家用車があるのが当たり前な現在の子どもたちは、そもそもバスに乗る機会が少ないため、まずは知ってもらうことを目的として行っています。

バスの利用方法が分からないことも、利用を妨げる要因だと思いますので、保育園・幼稚園児を対象とした講座も実施していきたいと考えています。

井上　貴之
(伊豆箱根バス㈱ 営業部部長)



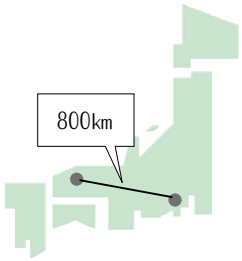
●interview バス事業者の声

杉山　保徳所長(伊豆箱根バス㈱三島営業所)

現在、バスの利用者層が、徐々に通勤・通学者から高齢者に移行しているように、バス事業自体が分岐点に差し掛かっていると感じています。

年齢層によって異なる利用時間帯にどう対応するかなど、事業者も変化が必要だと思います。利用者が増えるほど、バスの利便性は高まります。行政などと連携する中で、サービスの向上に努めていきます。ご利用のお客さまがこのまま減少すると、全国の自治体と同様に、いざバスが必要となったときに、すでに路線がなくなっていたということも十分考えられます。

改めて皆さんに、公共交通の有り方を見直していただければと思います。



1日の運行総距離 833.5km（東京～広島間を超える距離）

市民を支えるコミュニティバス

interview バス利用者の声

森藤　澄江さん
（ふれあい号利用者）
乗車歴 10 年

買い物や病院、習い事に通う際に利用し、年中お世話になっています。ふれあい号の乗客は、同じ地域の人ですし、運転士さんは乗客の顔を覚えてくれており、気さくに話せる空間です。安心して乗車できますし、バスでのふれあいの時間も楽しみになっています。

荻野　勇也さん
（玉沢線利用者）
乗車歴 1 年

高校 1 年生の夏休み前からバス通学をしています。自転車での事故をよく耳にするので、両親も安心しているようです。通学以外にも、遊びに出るときに利用しています。

学生や車を持っていない人にとって、バスは本当に生活に不可欠な存在です。

市民生活の足、コミュニティバス。皆さんは、見かけたことがありますか。

① きたうえ号（市委託事業）

三島駅～北上文化プラザ（大人 200 円・小学生 100 円）

富士急伊豆タクシー㈱により運行。北上地区を走るバス。一部「フリー降車区間」が設定されており、バス停がなくても、自由に降車可能。

② せせらぎ号（バス会社に補助）

三島駅循環（東回り・西回り）（100 円）

伊豆箱根バス㈱、富士急シティバス㈱、㈱東海バスオレンジシャトルにより運行。市街地活性化、観光施設への交通の利便性向上を目的に運行。

③ なかざと号（バス会社に補助）

大場駅循環（100 円）

伊豆箱根バス㈱により運行。買い物、病院などへの交通の利便性の向上など、中郷地区の活性化を目的に運行するノンステップバス。

④ ふれあい号（市委託事業）

三島市役所～梅名（大人 200 円・小学生 100 円）

伊豆箱根交通㈱により運行。中郷北部の地区を走るバス。一部「フリー降車区間」が設定されており、バス停がなくても、自由に降車可能。

⑤ 玉沢線（市委託事業）

三島駅～玉沢（距離制※詳しくはお問い合わせください）

㈱東海バスオレンジシャトルにより運行。三島駅から三島総合病院や県総合健康センター、玉沢地区をつなぐバス。

バスの運行情報について

各バスの時刻表や路線図など、詳しくは各事業所にお問い合わせください

問合せ　①富士急伊豆タクシー㈱（☎ 975 － 2714）②三島市地域安全課（☎ 983 － 2701）③伊豆箱根バス㈱（☎ 977 － 3874）④伊豆箱根交通㈱（☎ 984 － 3700）⑤㈱東海バスオレンジシャトル（☎ 935 － 6611）

中山　茂さん
（なかざと号利用者）
乗車歴 14 年

週に１～３回、まちに出るときや通院に利用しています。免許を返納しているため、バスが生活の足となっています。バスがないと、最寄りと言っても 20 分以上かかる大場駅まで歩くか、息子の車に乗せてもらうかになるので、生活になくてはならないものとなっています。

知ってると、便利な耳寄り情報

運行情報や路線図が無料で検索できる乗換案内アプリ、ナビタイム。10 月から市内コミュニティバス情報の配信が開始されます（玉沢線は対応済み）。ぜひ、ダウンロードをして、活用してください。

▲時間検索で予定も立てやすい

市内を走り続けるバス
安全に目的地まで到着する
そこには運転士の努力がある

バスの力を信じて 未来にバトンを

運転士はただ目的地までお客さんを運んでいるわけではありません。お客さんのこと、地域のことを思いながらバスを走らせています。

interview バス運転士の声

河内　恵美子さん
（せせらぎ号運転士）

バス運転士は自分の天職 常にやさしい運転を

せせらぎ号、定期路線、貸切バスなど、各バスを運転しています。お客さまからの「ありがとう」の声に、喜びとやりがいを感じながら業務に励んでいます。

私たち運転士は、 高齢のお客さまをはじめ、観光客など、さまざまなお客さまを乗せて走るせせらぎ号が大好きです。せせらぎ号はとても地域に根ざした存在であることも実感しています。

今後もやさしい安全運転を心がけ、あらゆる世代にせせらぎ号に親しんでいただき、より地域に愛されるバスにしていきたいです。

渡邉　宗一郎さん
（きたうえ号運転士）

お客さまとのつながりを 大切に、安全運転を

きたうえ号は、路線バスよりもお客さまとの距離が近いと感じています。いろいろなことを家族のように話してくれる乗客の皆さま。自分自身もその地域に溶け込んでいるようで嬉しいです。

運転中、お客さまの乗降を楽にするための工夫や、揺れの少ない低速運転、車内の温度調整に気を配っています。今後、高齢のお客さまが増えることが予想されます。お客さまとのふれあいを通して、快適な移動時間を提供し、なによりも生活の足として、更なる安全運転に努めていきます。

バスなどの公共交通機関を利用する際にご活用ください

●高齢者免許返納支援事業

運転に不安を感じている70歳以上の高齢者が自主的に運転免許を返納すると1万円分のバスなどの利用助成券を交付します。

対象　運転免許返納時に市に住民登録している70歳以上で、免許証を自主返納（有効期間内に運転免許を返納すること）した人※すでに失効した運転免許は自主返納とはなりません。

問合せ　地域安全課（☎983－2651）

●高齢者バス等利用助成券（100円分、30枚綴り）

市内を運行する路線バスや伊豆箱根鉄道駿豆線乗車時に、1乗車100円分として利用できる助成券を申請者に対して年度内に1回発行しています。今年度の使用期限は平成29年3月31日です。

対象　年度当初（4月1日）において三島市に住民登録があり、年度内（翌年3月31日）に70歳以上になる人

問合せ　長寿介護課（☎983－2609）

―生活の足を考えること、それは未来の選択―

移動手段があるのは当たり前のこと。
普段の生活の中で、考えることは少ないはずです。
でもそれが、自分の未来に関わることだったらどうしますか。
自動車の運転ができなくなったとき…
想像してみてください。
今後、バスが担う役割は大きくなるものの、維持していくことがとても厳しい状態です。
なくなってから元に戻すことは、容易なことではありません。
みんなで乗って、みんなで支える。
皆さんの選択が自分の未来につながっていきます。